

2021年9月29日 甲府市議会本会議

2020年度決算についての反対討論

いのちを大切にす

甲府市でなければならない！

こうふクラブ 山田 厚

**反対討論を行います。**

議案第73号 2020年度甲府市一般会計決算のうち

- ①「極めて抑制されている人件費支出」と
- ②「市立甲府病院への総務省基準以下の操出金」について不同意です。
- ③特別会計のうち国民健康保険事業特別会計と後期高齢者医療特別会計の「保険料の負担増」について不同意です。

**① 甲府市は正規職員と会計年度任用職員などの扱いに問題があります。**

これは人件費を抑制しすぎであり、必要な人手を確保していないことにより  
ます。昨年の2020年度予算委員会でも、私たちは会計年度任用職員の給与  
額が低すぎことや、またフルタイムではなく、年間240万円程度の短時間雇  
用ばかりにしていることに、私たちは不同意としました。

また、正規職員の過重労働傾向も 特に2019年に中核市に移行してから  
特に強まっています。

それはそうでしょう！中核市となり2549もの事務事業が移譲されても、  
市全体の人件費は増やさないで、非正規の方々の給与と正規職員の人手は増や

さないからです。

これは過重労働となり心身の健康不調を招きます。健康診断結果の有所見率という健康不調者は1565人で全体の75.3%。そのうち再検査・精密検査の二次健診を受診した職員は、わずか26人です。病気休職者は37名の過去最悪です。厚生労働省の示す過労死ラインをこえる職員数も多数になっています。

これは甲府市の幹部当局が人件費を乱暴に抑制し続けていることによります。

市役所における仕事とは、職員と市民との関係が基本です。その市役所の市民サービスの基本とは、職員による市民への丁寧で良好な対応を続けることです。それが、慌ただしく疲れ切っていては丁寧な状態は維持できません。

しかも甲府市役所は甲府市内の雇用数では最も多く、その労働環境でも「良好なお手本」とならなければなりません。コロナ感染症災害期では、そのことが、強く求められていたはずではありませんか！

## **② またこのコロナ感染症災害期だからこそ、地域の中核病院である市立甲府病院は大切です。**

医師・看護師などの医療従事者や事務を担われているすべての方々の献身性に感謝いたします。そして、甲府市として、いのちと健康を守る地域拠点である市立病院を、その経営上からも守ることは当然です。

しかし、「甲府市一般会計」は、地方財政法や地方公営企業法とその施行令からも明確にされている総務省の操出基準を守っていません。この操出金は市立病院の赤字補てん額ではなく、財政上の一般会計の義務のはずです。

地方公営企業会計は上水道・下水道や卸売市場もありますが、操出基準が守られていないで減額されているのは市立病院だけです。

おかしいではありませんか？

令和2年度でも操出基準額より7400万円も不足しています。これでは市立病院をわざわざ赤字に仕向けるようなやり方です。

このコロナ感染症期こそ、市立病院で働く人と経営をまもることが必要です。

それに逆行していると言わざるを得ません。これでは健康都市宣言の甲府市とは言えません。したがって、この事態に反対するしかないのです。

### **③ 国民健康保険と後期高齢者医療における2020年度の保険料負担増に不同意です。**

国保の保険料上限額の99万円への3万円の引き上げは国の指導によるものですが、10年間で30万円もの負担増です。4人世帯で約600万円台からのこのような引き上げは苛酷です。自治体としての甲府市は負担増抑制の努力をしなければならなかったはずです。

また後期高齢者医療では、保険料軽減が「見直され」負担増となりました。これは山梨県全体ですが、甲府市では4000円をこえる負担増が約8000人、3000円負担増の方が約7000人と合わせて1万4000人以上とお聞きました。平均年齢82歳～83歳を超える方々への負担増は、とても、高齢者を大切に扱っているとは思えません。

コロナ感染症の最中であっても「高齢者お荷物」論の政策反映と言わざるを得ません。

以上 討論とします

※これは、発言原稿です。実際の発言では強調する言い回し、言葉の繰返しなどが入っています。